

首都圏に広がる『千代石』の樹木葬墓地 (2026年4月現在)

鎌倉材木座
樹木葬墓地
「月あかり」

完売

骨壺納骨型樹木葬



横浜慶弔寺
樹木葬墓地

骨壺納骨型樹木葬



北鎌倉樹木葬墓地 ※4期

骨壺納骨型樹木葬



寺院を最優先したプロジェクトを企画。
1カ所の樹木葬で約100家族以上の
新しいご縁をお客様につくり、
お客様にも大変喜ばれています。

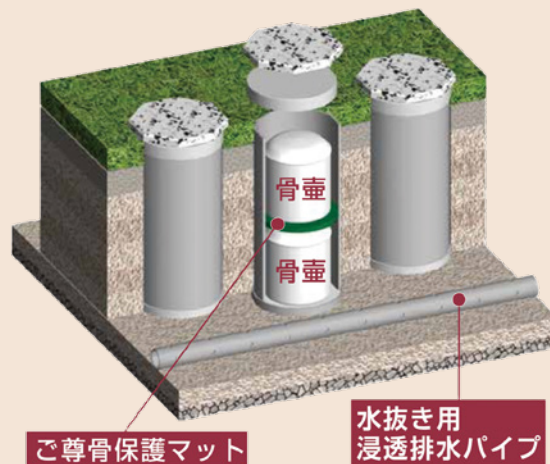


石塔は樹木葬墓地では少ない縦型で、側面に建立者名、裏面に戒名などの字彫りもできます。



千代石

骨壺納骨型樹木葬®



ご尊骨保護マット

水抜き用
浸透排水パイプ



こちらからも
検索できます。

ちよせき
千代石株式会社

☎ 0120-918-763

✉ info@chiyoseki.jp

神奈川県横浜市神奈川区
西神奈川1-6-15 桜ビル906

<https://chiyoseki.jp/>



※特許庁認可 千代石株式会社
『骨壺納骨型樹木葬墓地構造』
特許番号:特許第7397515号
(特許権成立日:令和5年12月5日)
『骨壺納骨型樹木葬』は千代石株式会社の
登録商標です。(登録第6900370号)

「尊厳を守るための
技術がここにありません」

「樹木葬はもっと自由で、もっと心に寄り添う形であつてよいのではないだろうか」

近年、自然と調和する供養として広がりを見せる樹木葬。しかし、その多くは「尊骨を粉骨し、散骨することが前提だった。収骨のとき二つひとつ拾いあげた骨や家族で骨壺を囲んだ時間、「本当はこの形のまま眠ってほしい」という願いを失ってしまうことに迷いや戸惑いを覚えていた方も多いのではないだろうか。故人と向きあい、別れを受け止めるための大切な時間であるにも関わらず、粉骨にしてしまうことは以前から多くのご住職が違和感を抱いていた。ご遺族からも樹木葬という形式が広がる一方で、「粉骨は心が追いつかない」「形を変えず、骨壺のまま納めることはできないのか」という声が増えていた。その想いに真正面から向き合い、従来の樹木葬の課題の改善を重ね、形としたのが『千代石株式会社』が開発した『骨壺納骨型樹木葬®』だ。一級建築士や土木・造園業者など樹木葬関連のプロが総力をあげて開発した「骨壺納骨型樹木葬墓地」は、自然との調和を大切にしながらも骨壺をそのまま納めることができる

自の墓地構造をもつ。2023年12月には、納骨構造に関する特許を取得し、2025年には商標登録が認められている。

『骨壺納骨型樹木葬®』の最大の特長は、水害に強い排水構造と高い耐久性だ。近年の日本は、集中豪雨や台風、長雨の影響による水害や墓地内部への雨水の侵入が懸念されている。雨水の侵入は、ご尊骨の尊厳に直結する問題でもある。そこで同社は、排水用パイプを設置し、浸透圧を利用して雨水を敷地外へ逃がす構造を採用。また、玉竜を植える腐葉土の下には、透水シート敷設もされており、雨水の侵入や墓石の浮き上がりを防ぐ設計を施している。さらに、地震の対策として、ユニベルトと呼ばれる金具で骨壺をしっかりと固定する。外柵も耐震金物で補強し、地震の揺れや衝撃をはじめとする様々な自然災害や気象条件に対応できるよう配慮されている。区画は2霊から4霊まで対応しており、ご家族単位で納骨することもできる。独自のポットに骨壺を収容する際には、底に保護マットを入れることで、骨壺を重ねて収容できる仕組みだ。立体型墓石を採用した背景

祈りの大切さを



妙典樹木葬墓地「松韻苑」「松濤苑」

横浜やまた
樹木葬墓地
骨壺納骨型樹木葬。



湘南茅ヶ崎樹木葬墓地 ※2期
骨壺納骨型樹木葬。



横須賀衣笠樹木葬墓地 ※3期
骨壺納骨型樹木葬。



心花の里
樹木葬墓地



烏山
樹木葬墓地



伊勢原
樹木葬墓地



清水ヶ丘
さざん華
樹木葬墓地
骨壺納骨型樹木葬。



壬生
樹木葬墓地



野田樹木葬墓地「大樹」「大地」「大花」
骨壺納骨型樹木葬。



海老名
樹木葬墓地
※2期
骨壺納骨型樹木葬。



富岡さくら
樹木葬墓地



古河
沙羅双樹
樹木葬墓地
※3期
骨壺納骨型樹木葬。



稲毛霊園
樹木葬墓地
骨壺納骨型樹木葬。



湘南大磯汐彩
樹木葬墓地
※3期・4期
骨壺納骨型樹木葬。



藤沢樹木葬墓地
※ペットも一緒に納骨ができる区画あり

未来に届けたい

には、家名や人生の集大成として授かった戒名、建之年月日を刻むことができる。このほかにも、手書きの文字や絵を選んだ墓石に自由にデザインすることも可能。終の住処となる墓石に大切にしている言葉を刻んだり、自分らしさを表現したりと世界にただけの墓石を建之できる。

従来の樹木葬は、より多くの区画をつくるため、納骨や参拝時のスペースが十分に確保されていないケースもあった。納骨時に他のお墓を跨いだり踏んだりすることがないよう、納骨用渡り踏み石スペースを設置している。

過去の固定概念を覆し、一切の妥協を許さず細部までこだわって完成した特許樹木葬は、供養の場としての故人の尊厳を守るための思想が細部まで配慮されている。寺院への説明や施工時の一級建築士による現場指導、経験豊富なクリエイティブディレクターによる販売支援など、設計から施工、販売まで一貫したサポート体制が整っている。これまで樹木葬を手がけたことがない石材店や寺院、霊園でも安心して導入できる。商談や問い合わせも増えており、墓じまいなどで返還された空き区画を使用する例から百区画以上の大型のケースまで、様々な計画が進行している。現在は、寺院を最優先にしたプロジェクトを進行中。永代供養に適した『骨壺納骨型樹木葬®』の利用期間は50年と長い。お寺も世代を跨ぐ一大事業だ。

最初は1カ寺から始まった『骨壺納骨型樹木葬®』は、関東エリアを中心に広がり続け、現在22カ寺と提携している。身近でご尊骨を安心して任せられる存在として、「お寺での樹木葬にしてよかった」「信頼できる」という声も多く、今後ますます広がりを続けていくことだろう。

樹木葬は、自然に還るための仕組みであると同時に、祈りを受け止める場でもある。収骨の時に家族が抱いた想いや骨壺を囲みながら交わした言葉を失わず、形を変えずに納骨する『骨壺納骨型樹木葬®』。日本人の「供養したい」という願いにお応えし、家族の記憶と祈りをそのまま未来に手渡すことが、これからの時代に求められている供養のかたちだ。